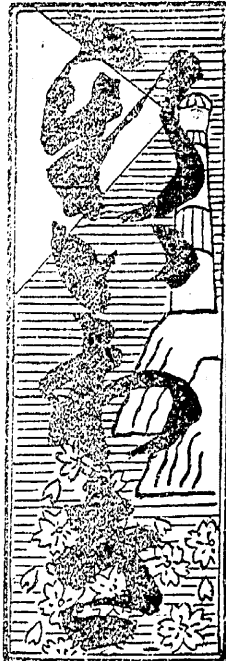


刊夕日四十月十



休日 日曜日
午後五時 廿五分
午後六時 卅五分
午後七時 四十分
午後八時 四十分
午後九時 四十分
午後十時 四十分
午後十一時 四十分
午後十二時 四十分

ソネットと云ふのは
英國に於ける一種の詩
形で行数を十四に制限
する所謂十四行詩のこ
とである。漢詩に云ふ
七言絶句とか五言絶句
とか云ふものと變りの
ない意味のものである

所は左記の如くである
三月十四日夜十時頃月見町
佐藤吉松方、同月二十三日
夜九時頃同町小川常右工門
方の積杉葉へ、五月八日夜
九時頃同町根本集人方風呂
場、常夜同じく月見町猪野
與三郎方軒下、六月八日同
町新田前の元中山淺次郎方

便所、同月十六日同町小川
常右工門方軒下の杉の葉へ
八月十八日夜新川町永山秀
吉方家の窓、同月二十一日
月見町平政吉東側窓家に二
回、同月二十二日夜十時頃
月見町高橋傳十の裏家の窓
の中へ、同夜月見町加藤大
三郎方裏の鶏小屋へ(以上)

町村吏員の互助會

問題は縣の助成金

六千圓出して呉れるかどうか

出なければ財政計画困難

過般山形縣新庄町に開辦され
た東北六縣町村長會の會長會
議に於て町村吏員に対する優
遇の施設として各縣下を打つ
て一丸とする縣町村吏員互助
會なるものを設立すべく申合
せられたので本縣では社団法人
とす同會の事務所を福島
市に置き知事を總裁に内務部
長を會長に推して吏員相互間
から甲種一圓二十錢乙種一圓
の毎月贈金と各町村の補助額
(吏員一人當り月五十錢)及び
縣の助成金六千圓を合せて三
萬九千圓の基金計畫を立て吏
員間の互助並に向上に資し退

明十五日で閉ぢる

四倉市場の総勘定

昨日迄の取引では平均廿八圓余
見込外れの減收一萬七千圓

四倉町の産市場が明十五日限
り閉場されることは昨報の如
くであるが十三日迄の取引高
は四月三十二日二萬八千九
百六十九圓九角八分五厘八
六分この總額が十六萬五千九
百二十七圓九角八分五厘八
六分平均三十八圓四角五分
つてあるこれを去る春前平均
均價格白藤五十九圓七十錢黄
藤六十四圓三十錢であつたも
のに比すれば三割五分の下落
の影は實に於て大したも
のなからうと

平町有土地の特賣

湯殿山下と
共済病院脇

平町に於て過般競争入札に付
され町有土地の處分は豫定額
に達しなかつたため再入札を
試みる方針で右の内字
十五丁目共済病院側火の見櫓
下及び湯殿山下の才樋小路地
内に於けるものは坪十八圓を
以て共済院を大和和醫院に又

秋蘭相場

平均卅三圓八十錢

四倉産市場に於ける昨十三日
の取引は出荷千二百七十四百
五十石で最高三十八圓、最低
二十九圓、平均三十三圓八十
錢の相場であつた

平町の放火犯後聞

平署が捜査警戒に從事
した延人員二百四十人

犯人の送局は明後十六日

昨報平町の放火犯人伊藤喜一
郎(○)が検束されるまでの其
筋の苦心は犯人が火防組合長
の要職にあるのと物的證據が
完全しない爲去る八月廿一日
夜月見町平政吉方東側窓家に
放火して以來毎夜九時か十時
朝四時まで四班に分れた不眠
不休の捜査員が奮闘した。延
人員實に二百四十餘名に達し
てゐる此の嚴重な捜査を進行
知らぬ前記犯人は當月二十二
日夜また一町内加藤大三郎
方裏長屋に放火した際安藤清
事部長、柏木刑一の密行にて
喜一郎の夜警巡邏直後である
のを突止められたのが有力な
容疑の事實であつた同人が斯
る犯罪を繰返した狂態は本年
三月中鎌田遊郎附近で自轉車

明日から響く銃の音

獵天ダグに秋來たる

平署の免許狀既に三十一名
今年に獲物は非常な繁殖

明十五日から雉山鳥を除いて
解禁される平署の狩獵免許狀
會談室に開催され平、内郷、
湯本、磐崎、小名濱五ヶ町村
下付に達した今年地方の財
況が未だ充分に引立たないの
で大小の獵天狗連が引込み思
案でないかと云はれてゐる
が獵される鳥獸類は近年にな
り好繁殖で飯野村の山裾邊り
から平、小川附近に於ける
山野藪の稲田に餌を漁る雉
類は例年に較べて非常に多い
模様であるから同様に差支の
ない十一月一日頃までは相
當の免許狀を見るであらうと
云はれてゐる

新貨

五錢と十錢の

平町日銀代理店
に於て新貨された純ニッ
ケルの五錢及び十錢の新貨幣
は今日十四日日本銀行から平
常銀行支店内日銀代理店に
到着したが頗る優美なもので
明後十六日から一般に使用さ
れる由

組頭會議

昨十三日開會

會談室に於て
平署管内に於ける消防組頭會
議が

青年團對抗野球

参加十一チーム

明日の大會組合せ決定

平青年團主催分團對抗式野
球大會は明十五日午前八時か
ら平、中、平第一の三球
場で行はれるが組合せは左
の如く

明日平水道

水神社祭

平水道の守護神である八幡小
路配水池内に祀る水神社祭
典は明十五日午前十時町吏員
町議その他町内有志者列執行
の筈であるが當十五日は尚後
毎年の例祭日に決められた

盗んだ米を賣る所を

平町南町の途上で
宮城縣刈田郡越河村大字五賀
七二生れ當時住所不定無職
制野吉(○)は去る十一日午

観月會

一水選地
明星を頂きて獨り新酒かな
蝸堂選入
明治御苑の菊も新酒哉
明け暮れの新酒の酔や馬士の
唄
秋芳選入
焚火して新酒に語り明しけり
晴明が新酒に酔ひて語りけり
輝明寺ほししい灘の新酒かな
露月天、復堂天、松洞天
扁舟人、采月人
飲み明す新酒に馬を忘れけり
明日になり新酒と聞て二日酔
明神に詣つる朝や今年酒
金明の水滴る、新酒かな
明日よりは新酒賣り出す廣告
哉
明石島遙かに見えて新酒くむ
銀鈴選天
明星や新酒の酔のまださめず
芳園

五錢奉仕會

九月分(奉仕各位)
金十錢渡邊三男 柴田武雄
金五錢中野文吾 矢内忠
矢内シゲ 水野清一 永山
一枝 金三十錢永山小平
金六十錢菅本庄治 合計一
圓三十五錢 累計金二十三
圓六十五錢(以上平庶民金
庫現在預入額)

前一時頃石城郡平窪村上平窪

農吉野佐平太方倉庫内に忍び
入り玄米二俵(八入り)時價二
十圓を窃取し十三日夜に至り
リヤカーに積んで賣却し金に
替へやうとしてゐる十一時頃
平署員に檢舉取調中である
が米が賣れれば水戸方面に高
飛びする心算であつたと

紫雲英の栽培法

栽培法 (八)

天辰克己

浪江播種園に於ける成績(自
大正十四年至昭和三年の四ヶ
年平均)

播種量別

一升播

二升播

三升播

四升播

五升播

開花盛期

五月廿五日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

五月廿四日

害を被ること懸播よりも甚だ
しい故に反當り一升五合乃至
二升位の播種量が最も適當と
されてゐる
四、肥料
紫雲英の肥料は主として燐酸
加量、石灰の三要素より成り
稲の黄熟期若しくは播種取後
直ちに施すのである、

入院 藤沼醫院
電話五〇七番

油問屋 關内油店
電話一六

耳鼻咽喉科専門
鈴木正男
鈴木醫院
電話五八八番

石綿工業所
石綿火器
大進歩
耐久用石綿細工品の

大森醫院
醫學士 大森勇
電話二五八番

カベ塗料
一坪分 単價二拾五錢
大谷建材商店
電話三六六番

朝日煙突
石綿工業所
電話一六四番

木村病院
電話一六四番

ゴルフポートワイン
西村屋薬舗
電話二〇〇番

天然加里肥
一俵 參拾錢
金成國雅
電話六八八番

河田鐵工場
河田梅吉
電話三二九番